

もみまきをしました <4～6年生>

5月7日(火) 5時間目、4～6年生が米作りのため、苗づくりの先生として地域のお住いの安東勇次さんをお願いし、所有の作業場でもみまきをしました。

まず、子どもたちは、苗箱をそれぞれ一つずつ担当し、肥料の混じった粒状の土を敷き詰めていきます。表面が平らになるように、安東さんからお借りした板を使って均し、その上にもみを蒔きます。子どもたちひとりひとりつかんだもみを、箱の端からばらばらと少しずつ蒔いていきます。満遍なく、そして、平らになるように、丁寧に慎重に作業を進めています。さすがに6年生は昨年度も経験しているようで、手際よく作業を進めています。一連の作業をまじめに取り組む子どもたち。ちゃんと育ててほしいという思いが大変伝わってきます。水やり、最後に上から土をかけて、この日の作業は終了しました。

今回育てる品種は“ひのひかり”とのこと。成長が大変楽しみです。



いもの苗植えをしました <1～3年生>

5月10日(金) 2・3時間目、1～3年生と大田子ども園の子どもたちで、さつまいもの苗植えをしました。この日は、おいもの先生として、たくさんの地域の方が来てくださいました。

今年度は、できる限り子どもたちの手で作業をさせたいとの私の思いもあり、マルチはりも地域の方と一緒にしようにしました。

長い畝に地域の先生たちが黒い“マルチシート”をかぶせます。次は子どもたちの出番。シートの端を、“マルチおさえ”でとめていきます。「“おさえ”の先は、畝の方に向けてね」とのアドバイスを受けながら、固い土との格闘。かいっぱい“おさえ”をさしていきます。畝は4本あり、ひとつの畝が終わると、隣の畝に移ります。子どもたちは1回経験すれば要領がわかったようで、どんどん自分から作業を進める姿が見られ、大変頼もしいものでした。

子どもたちが次の畝へと移動している間に、私や地域の先生が穴あけ器具を使って、シートに穴をあけていきます。穴は全部で100個できました。

いよいよ、いもの苗植えです。最初にうかがった「いもの苗が立つように・・・」との地域の先生のお話を思い出しながら苗をさし、土をかぶせます。“ぎゅっ、ぎゅっ、ぎゅっ”とやさしく丁寧に押さえています。



最後は、水やり。1年生が水のいっぱい入ったじょうろを重そうに持っていた姿を見かけ、3年生が「一緒に持とうか？」とやさしく声をかけています。また、別の3年生は、「土がかわいちゃんところにあげて」と教えてあげています。さすが1年生にとっては頼もしい上級生です。

100本もの苗をみんなで協力して、無事に植えることができました。校長の話の中で、“お世話をするのは自分たちである”ことを子どもたちと確認しました。おいしいさつまいもができるよう、しっかりお世話ができることを期待しています。



いもばたけの草刈りや畝づくりは、地域の方がしてくださいました。子どもたちのために、地域の皆様が陰に陽に力になってくださいます。大変ありがたく、感謝申し上げます。

～先生のマークをつくってあげる～

先日、職員室で養護教諭の田嶋先生が、「子どもからこんなものをもらいました」と笑顔で話す場面に遭遇しました。見ると、初心者マークではありませんか。

その日の昼休み、田嶋先生が2・3年生の教室に行った時のこと。折り紙を折っていた子どもたちに、「先生も一緒につくろう！」と誘われたのだそうです。そして、一人の子が、「先生のマークをつくってあげる」と、冒頭の初心者マークをつくってくれました。

田嶋先生の車には、本物の初心者マークが貼ってあります。その車の様子を子どもたちはよく観察していたようです。子どもたちが折った初心者マークは、紙で作ったものとは言えないほどの見事な出来栄でした。



今年度初めて学校現場で働くようになり、初任者であり先生としても初心者マークとなる田嶋先生。子どもたちとの日々の楽しいやりとりや子どものやさしさにふれ、養護教諭として、運転もそして仕事にも気持ちを新たにしたいと違いありません。